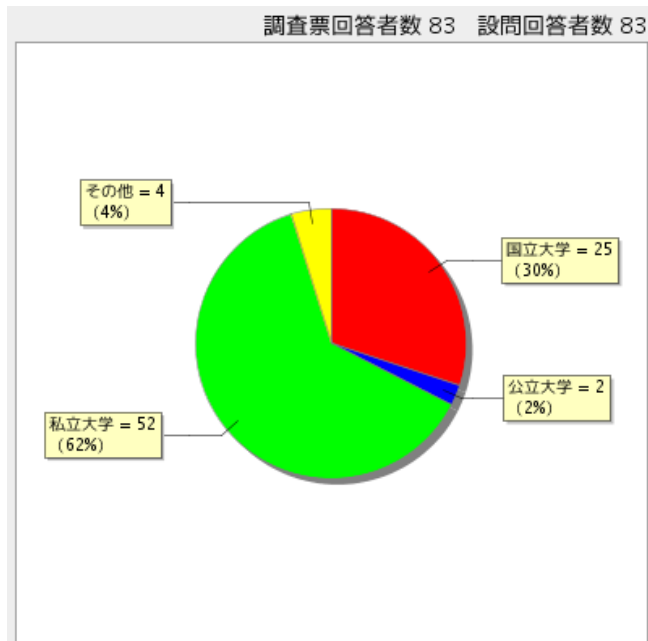


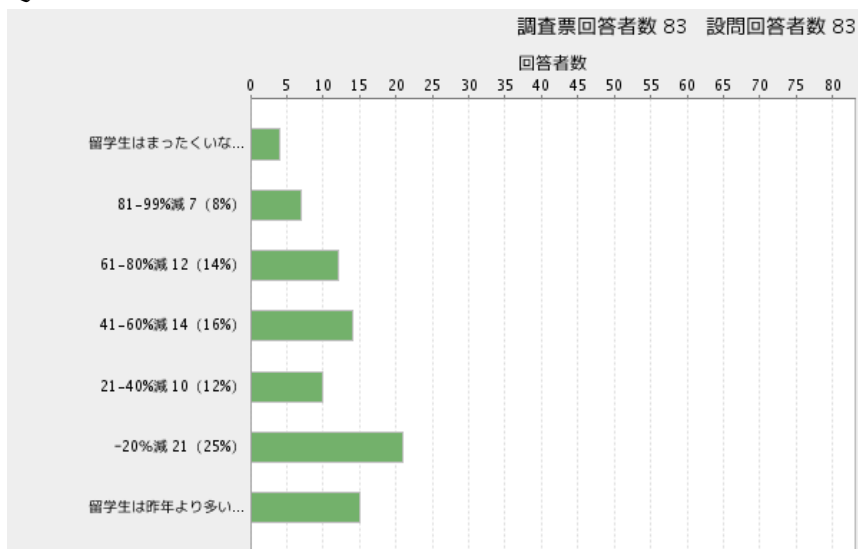
留学生教育学会緊急調査（留学生受入：教職員対象）速報

Q7 お答えいただいた方々の機関



※その他としては私立高校・短期大学、進学予備校など

Q13 学生の受入状況



※ちなみに「昨年より多い」とお答えいただいた方々の中には「4月入学の、全員に近い数の学生が、以前から日本国内で生活していた者であるため（中部；国立大）」「2018-2019年の人数が少なかったため（関西；私立大）」「例年通り（不明；国立大）」「日本国内の教育機関からの学部新生を増やしたタイミング（不明；国立大）」といった記述が見られている。とくに「早くから留学生に入国制限に関する情報提供をしていた」ことで昨

年よりも留学生を増やした大学（関東）もあった。また、営業的な努力が奏功して「紹介の紹介などが多かったのと、業者主催の説明会等に出向くようになった」ということで、昨年度より大幅に留学生を増やした関東の短大もあったが、全体としては留学生の受入が大幅減であるのは間違いない。「春学期授業が非対面授業と決定後、日本政府の入国制限が実施されているにも関わらず帰国する留学生が一定数いると思われる（関西：私大）」というような状況であり、実際には学内（国内）にいる留学生を把握し切れていないのではないかと、といった懸念材料を持つ大学等もあるようだ。

Q16 留学生受入で困っている事項（三つまで選択）

入学者減少	15 (20%)
留学生の再入国に関して	33 (44%)
留学生途中帰国	21 (28%)
留学生の所在確認	13 (17%)
学納金関連	11 (14%)
遠隔教育関連	37 (49%)
教職員雇用	7 (9%)
留学生進学関連	2 (2%)
留学生就職関連	8 (10%)
学校運営経営問題	4 (5%)
留学生メンタルヘルス	21 (28%)
その他	11 (14%)
無回答	8 (9%)

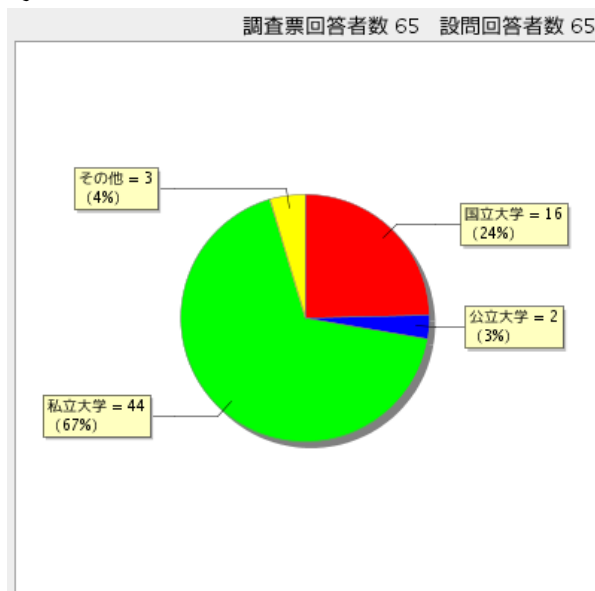
※その他として留学生宿舎に関する回答も多く、中には「学生寮に 300 名の留学生が居住していますので、感染者が出た場合の対応のシミュレーションなどが十分にできていません（中部：私立大）」といった悲痛な声も聞かれた。

Q22 今後の留学生受入回復、維持、促進のカギ

様々な意見が寄せられており、引き続き分析が必要になるが「感染が落ち着いてきている中国、韓国、台湾及び南半球の国・地域からは、問い合わせも回復しており、日本国内の状況が落ち着くのを待っているようである。留学生別科の秋募集志願者も例年とかわらず、潜在的に日本への留学を志す学生層は変化がないように感じる（関西；私立大）」といったポジティブな情報提供もあった。いずれにせよ全世界的に COVID19 による感染の危険が一段落することは共通した前提条件となる。

留学生教育学会緊急調査（日本人学生等派遣；教職員対象）速報

Q9 お答えいただいた方の機関



※その他としては「私立高」「総合学園」「公財」など

Q13 令和2年の日本人学生等の派遣留学方針

すべて計画通り	0 (0%)
すべて取りやめ	11 (16%)
一部実施・一部取りやめ	38 (58%)
未定	16 (24%)
私にはわからない	0 (0%)

※「不確定要素が多すぎて、現時点では回答できない（関東：私立大）」というのが代表的な意見になる。また遠隔授業で前期が終わることになると、後期からの留学に向けて十分なオリエンテーションが出来ない（関西：私立大）といった声も上がっている。そもそも米国などビザ発給を停止している国が多い（日本も同様だが）。なお、最後に記したが、各機関において未定という表現とともに「交換留学を中止」「交換留学を延期」といった表記の違いがあり、現在内定している学生の扱いなどについて、もう少し詳しくアンケート等をとる必要があるように感じた。

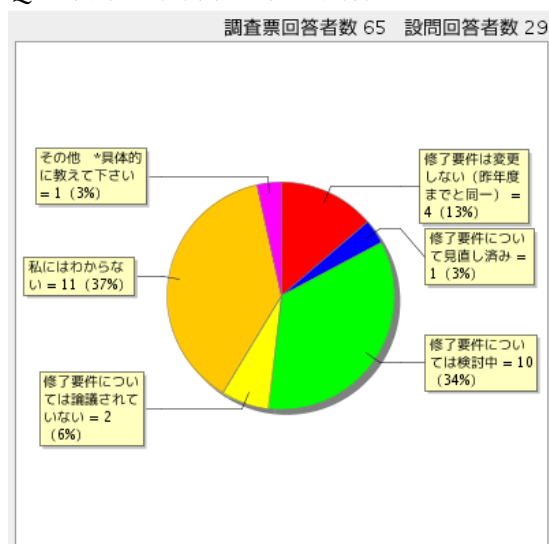
Q19 日本人学生等の派遣で困っている事（三つまで選択）

出入国管理（ビザ取得）	25 (39%)
遠隔教育関連	15 (23%)
父兄対応	15 (23%)
派遣学生のメンタルケア	14 (21%)

事務遅滞（派遣先・海外校）	28（43%）
事務遅滞（派遣元・勤務校）	11（17%）
派遣学生帰国手配	13（20%）
帰国時隔離等の手配	9（14%）
その他	24（37%）

※その他としては「次学期、次年度の派遣準備（中部：私立大）」「英語力資格試験が受けられないため、出願やビザ関係に支障（関東：私立大）」「派遣留学選抜済の学生に対する留学中止の発表と、対応策（関東：国立大）」、果てには「今年度は派遣者ゼロという意味では、[Q18]は「特に困っている事はない（例年通り）」です（東北：私立大）」といった回答までが寄せられている。なお「困っていることはない（九州：私立大）」とのお答えもあったが、当該校では「2020年の派遣の見通しはついていない」ということになっている。

Q22 留学必須課程の修了要件



※「留学を必須とする課程の修了要件見直し」に関して 29 の答えが寄せられている。「その他」については「代替プログラムで読み替える方向（関東：私立大）」であり、「見直し済み」は 1 校（九州：私立大）という結果となった。また「変更しない」とした学校が 3 私大と 1 国立大という結果である。ただしこの中には「留学原則必須であるが、特別な事情があれば留学せずとも卒業できる設定に当初よりなっている（関東：私立大）」というように、それぞれの事情もあるようだ。

Q26 今後の日本人学生等の海外への派遣留学を回復、維持、促進のカギ

回答者から得られた主な論点をおおまかに整理すると以下の様になる；

- ① COVID19 の終熄

- ② 奨学金などの柔軟運用Ⅰ；後に修整されたものの、当初世界の危険レベルが2になったときに、帰国勧告とともに JASSO 奨学金が「一律打ち切り」された際の学生支援に大変な思いをされた教職員が多かった模様で、国や機構などからの迅速な情報提供と機動的な支援を求める声がある
- ③ 奨学金などの柔軟運用Ⅱ；「ポスト新型コロナの社会では、経済的に困窮する学生が増えることと予想される。留学体験が特別な人の贅沢な体験となってしまうような「投資」が必要だと思う（東北：国立大）」といった、留学を軸にした教育の必要性について考えさせられるコメントもあった。
- ④ バーチャルエクスチェンジなどの「留学意欲を継続・刺激することが出来る」代替策の開発と普及
- ⑤ 留学を志す学生と保護者に対し透明度の高い情報提供を行う体制の樹立

※ 一通り読ませて頂いて問題提起をしたいポイントの一つは、今年度留学を断念した一定数の学生達は、その留学を「中止」させられたのか、留学の権利を保持したまま「延期」させられたのか、といった認識の共通化。学生アンケートでは「先輩の留学が後ろ倒しになったら、自分たちの留学にも影響する」というような心配を記している若い学年の学生もいる。一学年（もしくは同一年次）の間での公平と、学年を跨いだ（もしくは複数年次間の）公平とは、必ずしも両立しない。

※ またこのところ話題になり始めた「9月入学」が実現した場合、上記のような問題がどのように解決できるのか（もしくは問題が複雑化するのか）、慎重に見極める必要があるのではないか。